



農業 展示状



# 大館郷土博物館 展示図録

ODATE CITY MUSEUM

# 目次

館内案内図	1
目次	2
展示の趣旨	3

## I 大館の自然

1. 天然記念物	4
2. 昆虫の世界	5
3. 大館盆地の成り立ち	6

## II 自然が育んだ産業

1. 農業	7
1) 農具	
2) 力強くはたらく馬	
2. 林業	9
1) 天然秋田杉と林業	
2) 曲げわっぱのできるまで	
3) 桶・樽のできるまで	
3. 鉱業	11
1) 鉱山の歴史	
2) 鉱山機械と採掘道具	
3) 鉱石	

## III 大館の歴史

1. 先史	13
1) 旧石器文化	
2) 縄文文化	
3) 弥生・続縄文文化	
2. 古代	20
3. 中世	22
1) 矢立廃寺跡	
2) 比内地方と浅利氏	

4. 近世～近代	25
1) 佐竹西家時代	
2) 十二所茂木氏	
3) 大館戊辰戦争	
5. 近・現代	31
1) 小野儀助日記	
2) 北鹿ハリストス正教会	
3) 秋田釣針	
4) 写真で見る明治・大正	
5) 戦争	
6) 写真で見る昭和	

## IV 先人顕彰コーナー

## V 民俗

1. 民俗コーナー
2. ニンギョ

## 美術工芸展示室

## こども科学室

## 曲げわっぱ展示室

大館市のおもな文化財	42
展示資料一覧	43
大館郷土博物館のあゆみ	57
利用案内	58

# 大館郷土博物館の展示の趣旨

当博物館は、昭和 51 年（1976）に竣工された旧大館東高等学校を改築して、平成 8 年（1996）に開館しました。かつて、収蔵保管する資料を市民に展示公開する施設がなかったため、次のような構想により展示をしております。これらの資料は、開館以来、多くの市民からの寄贈・寄託によって、成り立っているものです。

また、平成 9 年（1997）には資料収蔵庫を新たに建設し、史資料の収集・調査・研究・保存に努めています。

## 留意点

1. 資料の展示に重点を置き、解説文によって補った。
2. 産業は農業・林業・鉱業を取り上げ、作業の手順に力点を置く。
3. 先史時代では、時系列に従い南北両文化の接点であることを強調し、特に縄文文化に力点を置く。
4. 明治期以降は教科書と生活用具を中心に展示している。

## 展示のあらすじ

### I 大館の自然（導入）

私達のふるさと大館は、四方を山に囲まれた盆地で、盆地内には今からおよそ 2～3 万年前の十和田火山の活動によって生成した台地と、その後に発達した沖積平野、そこを貫流する米代川とその支流によって自然が形成されている。

これらの自然条件は、動植物の生態系を規定し、長走風穴高山植物群落や芝谷地湿原植物群落など 6 件の国指定天然記念物を生み出した。

大館の歴史をたどる前にあらためてふるさとの自然を認識させる。

### II 自然が育んだ産業

古来より、大館の産業の中心は農業であった。鍬や鋤などの人力による農業から馬による畜力農業を経て、今日にいたる変遷を示す。また、大館地方の林業や鉱業は、地域の特性を表して古い歴史を持っている。

### III 大館の歴史

大館における人類の足跡は、後期旧石器時代（約 15,000 年前）にまでさかのぼる。

その後、縄文文化、弥生・続縄文文化、奈良・平安文化を経て現代にいたるまでの大館の歴史を探る。特に山館上ノ山遺跡や塚ノ下遺跡出土の遺物に代表される縄文時代の資料は研究史上でも重要な意義を持っている。両遺跡の資料は、当時の精神文化を表している。

また、古代では集落出土の須恵器や土師器などの土器のほか、道目木遺跡出土の曲物、大館野遺跡や塚ノ下遺跡出土鉄製品など古代の人々の生活道具から見た暮らしを表す。

古代末期～中世の平泉関連の遺跡である矢立廃寺跡は、北方中世史を解く鍵となるものである。中世後期は、浅利氏が比内地方を支配した。関係する遺跡や出土品を示す。

江戸時代に入り、国替えに伴い、大館地方は佐竹氏の支配下となる。米代川以北は、大館城を中心に佐竹西家が治めた。一方、米代川以南は、対南部藩の要所である十二所に所預が置かれた。天和 3 年（1683）以降は、茂木氏が所預となり治めた。

明治になり起きた戊辰戦争は、大館地方も戦渦に巻き込んだ。大館・十二所・扇田の町は焼き尽くされてしまった。

大館地方の近代化は、この戦争の復興から始まる。明治以降の大館地方は秋田県に編入された。大正、昭和と大館の中心部は数度の大火に見舞われ、歴史的な建造物や城下町の面影はほとんど残っていない。

### IV 先人顕彰コーナー

大館出身の偉人、11 分野 25 人について紹介する。

### V 民俗

昭和初期の生活民具から、昔の暮らしを再現する。



# I 大館の自然

## 1. 天然記念物

大館市内には、かつては「幻の動物」といわれた特別天然記念物“カモシカ”〔昭和30年（1955）指定〕を始め、国・県・市の指定を受けた多くの天然記念物の動植物が現存しています。

当博物館では、学術的にも貴重な存在とされている生物や区域を剥製・写真・パネル・ビデオなどで展示紹介しています。（長走風穴高山植物群落・芝谷地湿原植物群落・秋田犬・ザリガニ南限生息地・声良鶏・比内鶏・金八鶏・出川の櫨など）

大館市の天然記念物

指定区分	名 称	指定年月日	所在地
国	長走風穴高山植物群落	第1次指定	大正 15. 2. 24
		第2次指定	昭和 6. 10. 23
	芝谷地湿原植物群落	昭和 11. 9. 3	大館市釈迦内
	秋田犬	昭和 6. 7. 31	秋田県北地方
	ザリガニ南限生息地	昭和 9. 1. 22	大館市
	声良鶏	昭和 12. 12. 21	秋田県北地方
県	比内鶏	昭和 17. 7. 21	大館市周辺
	金八鶏	昭和 34. 1. 7	大館市周辺
市	出川の櫨	昭和 53. 3. 13	大館市出川
	御神木の櫨、イチイ	平成 7. 3. 17	大館市岩瀬



声良鶏



比内鶏



金八鶏



展示状況

## 2. 昆虫の世界



展示状況



世界のカブトムシ



世界のクワガタムシ



大館産トンボ・セミ・他



大館産チョウ

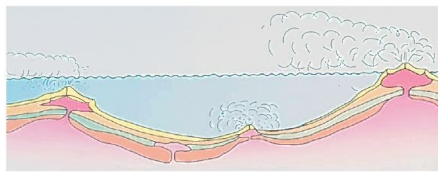


### 3. 大館盆地の成り立ち

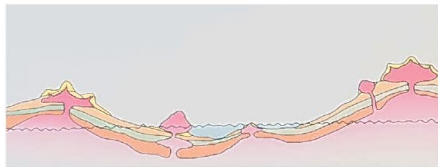
地球の歴史は46億年といわれています。大館盆地は、約2,500万年前には海底にあり、海性生物の死骸を含む厚い砂や泥におおわれていました。やがて約1,200万年前に隆起運動がおり、盆地周辺の山々はこのときに生まれました。200万年ほど前には断層運動による沈降によって現在の盆地地形が完成しました。この後、風化・侵食・湖沼化・シラス堆積を経て、氷河時代に現地形の基盤ができました。



展示状況



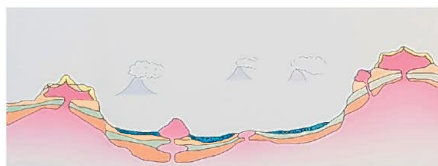
①海底にあったころ（約2,500万年前）



②海から陸へ（約1,200万年前）



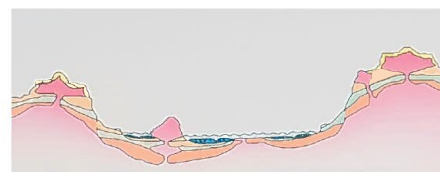
③盆地の出現（約200万年前）



④平坦地の形成



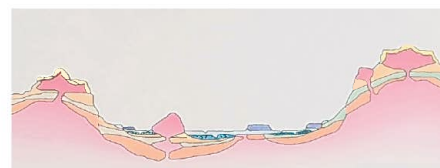
⑤最初の段丘の形成



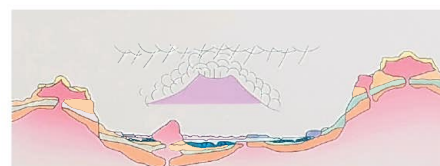
⑥湖沼化したころ



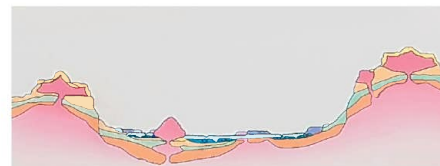
⑦火山灰（火砕流）の流入（約2～3万年前）



⑧新たな段丘の形成



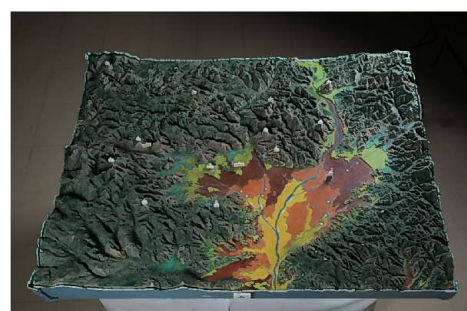
⑨火山灰をともった大洪水（約1,000年前）



⑩今日の地形を形成



化石



大館の立体地形模型

## Ⅱ 自然が育んだ産業

### 1. 農業

17世紀にかたちづくられた大館地方の農業の姿は、20世紀中頃まで大きく変わることはありませんでした。明治時代に乾田馬耕の普及、農業技術の改良や品種改良、耕地整理の拡大などが行われましたが、農業を根本的に変えたのは、昭和30年代に入ってから農業の機械化でした。

#### 1) 農具



展示状況



足踏脱穀機



唐み



ナワナイ機



ワラ打機



## 2) 鉱山機械と採掘道具



鉱山重機械



鉱山の道具展示状況

## 3) 鉱石

大館を含む北鹿地方（北秋田・鹿角地方の総称）が再び脚光を浴びたのは、昭和34年（1959）の小坂鉱山、内の岱鉱床の発見でした。昭和38年（1963）同和鉱業は北部及び西部開発室を新設し、松峰周辺を始め黒鉱鉱床の探査が積極的に行われました。

昭和37年（1962）に日本鉱業が釈迦内地区で、昭和38年（1963）に同和鉱業が松峰地区で、黒鉱鉱床を発見しました。松峰鉱床は、昭和41年（1966）の時点で鉱量約3,000万トンのわが国最大の黒鉱鉱床となりました。また、昭和44年（1969）には三菱金属鉱業が松木に、昭和45年（1970）には同和鉱業が深沢に、昭和51年（1976）には同じく同和鉱業が餌釣に鉱床を発見しました。

これらの鉱床の発見が、北鹿地方に黒鉱ブームを引き起こしました。



鉱物標本



黒鉄



鉱石展示状況



# Ⅲ 大館の歴史

## 1. 先史

### 1) 旧石器文化



松木高館平遺跡出土旧石器 [大館市指定文化財]

大館に人が住み始めたのは、約 20,000 年前の後期旧石器時代のことです。

彼らにとってすばらしいふるさとであった大館には、以後、断絶期をはさみながらも住みつづけられ、280 ヲ所をこす遺跡が発見されています。

あるときは北海道地方の文化圏を取り込み、また中央政府の脅威と対峙しながらも、この土地に暮らしてきました。

### 2) 縄文文化

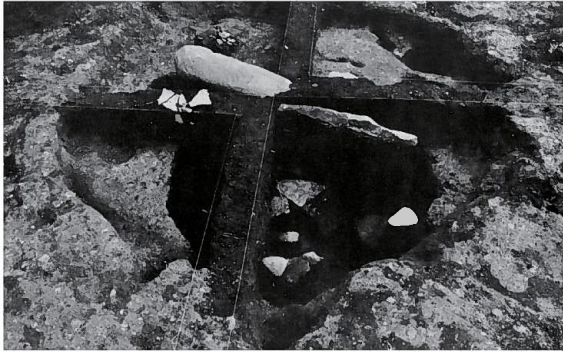
#### 縄文土器の移り変わり



- ① 尖底土器
- ② 円筒下層 a 式土器
- ③ 円筒下層 b 式土器
- ④ 円筒下層 c 式土器
- ⑤ 円筒下層 d1 式土器
- ⑥ 円筒下層 d2 ~ 円筒上層 a1 式土器
- ⑦ 円筒上層 a 式土器
- ⑧ 円筒上層 b 式土器

年代	時代	土器型式	おもな遺跡
16000年前	旧石器時代		松木高館平遺跡
10000年前	縄文時代 早期	隆線文系土器	高ヶ長根Ⅲ・Ⅳ遺跡 根下戸道下遺跡
		爪形文系 / 円孔文系土器	
		日計式土器 白浜式土器 赤御堂式土器 貝殻文土器群	
7000年前	縄文時代 前期	表館式土器	茂屋下岱遺跡 山館上ノ山遺跡 池内遺跡 芋堀沢遺跡 山館上ノ山遺跡
		円筒土器群	
		深畑田式土器	
5000年前	縄文時代 中期	円筒下層 a 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		円筒下層 b 式土器	
		円筒下層 c 式土器	
4000年前	縄文時代 後期	円筒上層 a 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		円筒上層 b 式土器	
		円筒上層 c 式土器	
3000年前	縄文時代 晩期	円筒上層 d 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		円筒上層 e 式土器	
		椋林式土器	
2300年前	縄文時代 晩期	最花式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		大木 10 式土器	
		十腰内式土器群	
西暦 0 年	弥生時代	十腰内 I 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		十腰内 II 式土器	
		十腰内 III 式土器	
300 年	古墳時代	十腰内 IV 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		十腰内 V 式土器	
		大洞式土器群	
600 年	古墳時代	大洞 B 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		大洞 BC 式土器	
		大洞 C1 式土器	
1200 年	中世	大洞 C2 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		大洞 A 式土器	
		大洞 A' 式土器	
1600 年	近世	砂沢式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		田舎館式土器	
		天王山式土器	
1600 年	近世	後北 C2・D 式土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		土師器・須恵器	
		土師器	
1600 年	近世	擦文土器	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		珠洲	
		白磁・青磁	
1600 年	近世	越前・宇滑	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		瀬戸・美濃	
		肥前	
1600 年	近世	瀬戸・美濃	山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡 山館上ノ山遺跡
		肥前	
		瀬戸・美濃	

大館の各時代の遺跡と土器

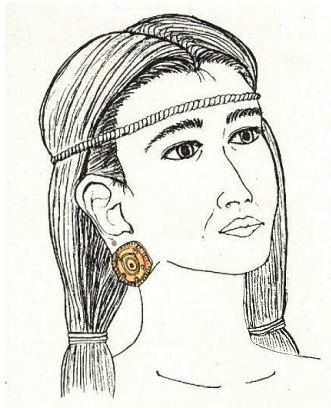


墓と土器棺



土器棺

お墓



耳たぶに孔をあけ  
耳栓を通して装着



土・石製品

装身具

道具



せきぞく  
石鏃



いしざじ  
石匙



せきふ  
石斧



いしやり  
石槍



いしべら  
石篋



せきすい  
石錘



せきすい  
石錘



くぼ  
凹み石

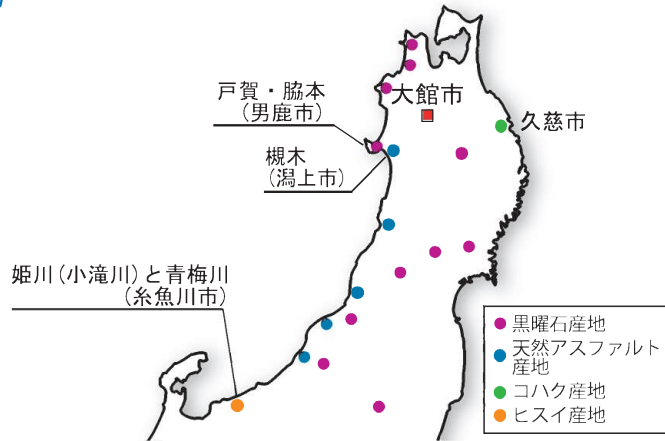


半円状扁平打製石器



# 交易

交易品原産地分布図



アスファルト付着遺物



ヒスイ 装身具 (萩ノ台Ⅱ遺跡)



北陸系土器 (中茂屋遺跡)



黒曜石 石鏃

# まつり



土偶 (本道端遺跡)



岩偶 (狼穴遺跡)



岩偶 (萩ノ台Ⅱ遺跡)



土製品



石棒



ほうけい 鋒形石器 (山館上ノ山遺跡) [秋田県指定文化財]

## 2. 古代

大館では奈良時代の遺跡が1ヵ所、平安時代の遺跡が約90ヵ所確認されていますが、10世紀以前の遺跡は扇田道下、山王台などの数ヵ所が確認されているだけです。発掘調査すると十和田火山起源の火山灰が堆積しているのを見ることができます。

10世紀をむかえると遺跡の数は急増し、家数も大規模になります。代表的なムラが大館野遺跡で、数十軒の家が建ち並び、鉄を生産し、煮炊きには土師器を、貯蔵には津軽の五所川原産の須恵器すえきを使っていました。



土師器杯（川口十三森遺跡）



土師器小型甕（川口十三森遺跡）



てつぞく  
鉄鏃（塚ノ下遺跡）



ぼうすいしゃ  
紡錘車（大館野遺跡）



ちようけいへい  
須恵器長頸瓶（大館野遺跡）



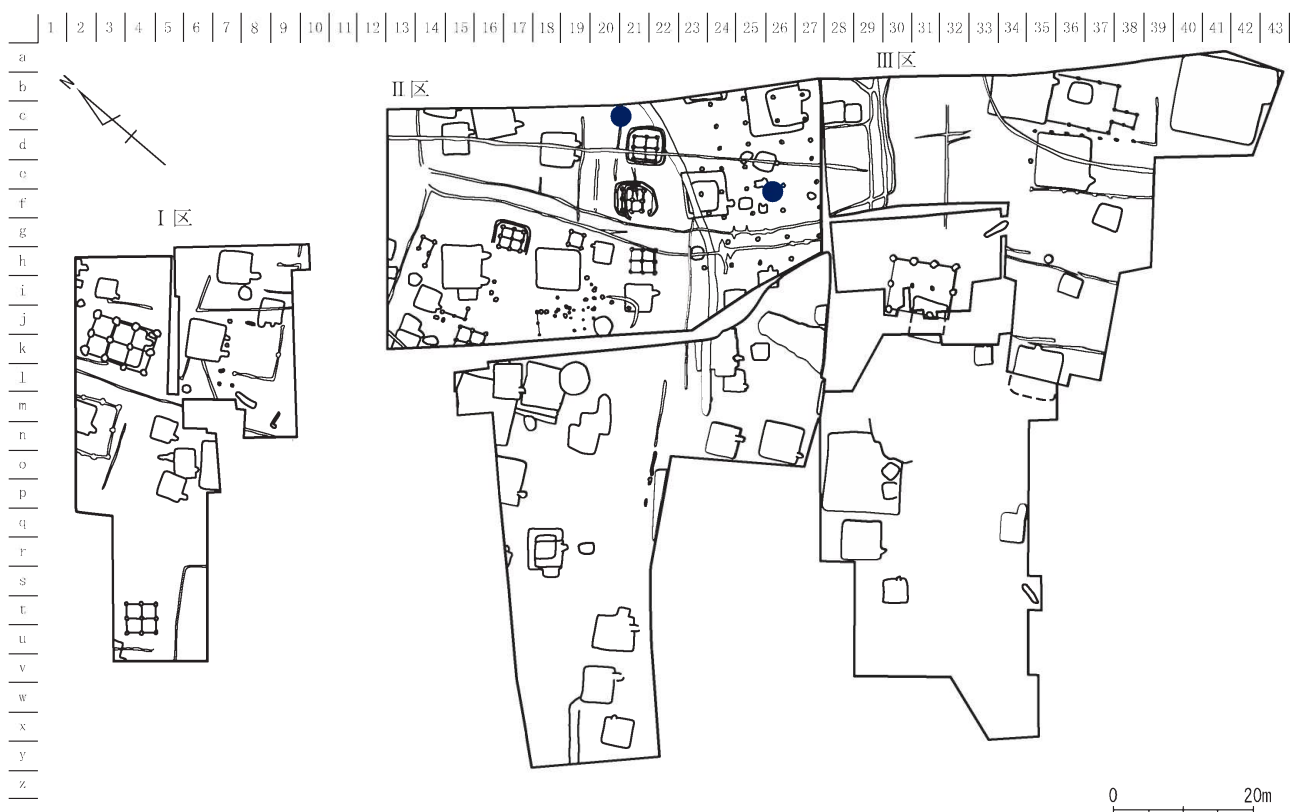
すきさき  
鋤先（山王台遺跡）



曲物（道目木遺跡）



# 大館野遺跡



大館野遺跡遺構分布図



製鉄炉跡 (SX5)



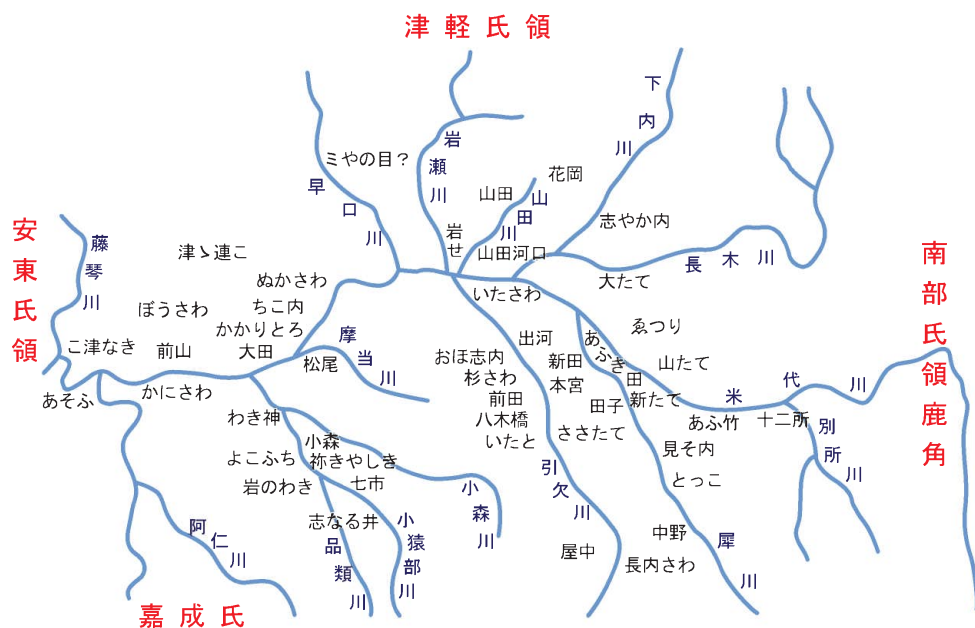
竪穴住居跡 (SI19)



フィゴ羽口・鉄滓



掘立柱倉庫跡 (SB16)



村名	田・畠	家数	現在地	村名	田・畠	家数	現在地
大たて村	田 畠	200余	大 館	本 宮	田 畠	7	本 宮
中野村	田 畠	80余	比内町中野	山たて村	田 畠	7	山 館
新田村	田 畠	70余	二 井	杉さわ村	田	7	杉 沢
あふき田村	一切無	60	比内町扇田	新たて村	田	6	比内町新館
志やか内村	田 畠	50余	釈 迦 内	前田村	田	6	比内町前田
さゝたて村	田 畠	40余	比内町笹館	いたと村	田 畠	5	比内町板戸
田子村	田 畠	25	比内町達子	いたさわ	畠	5	板 沢
花岡村	田 畠	20余	花 岡 町	山田河口	田 畠	5	川 口
山田村	田 畠	20余	山 田 町	あふ竹	田 畠	5	大 滝
とっこ村	田 畠	20余	比内町独鈷	長内さわ村	田	3	比内町長内沢
十二所村	田 畠	20	十 二 所	屋中村	田	3	比内町谷地中
ミヤの目	田少畠	20	岩野目か？	おほ志内村	田 少	3	大 子 内
八木橋村	田 畠	17	比内町八木橋	岩 せ 村	畠	2	岩 瀬
糸つり村	田 畠	7	餌 釣	見そ内	田 畠	2	比内町味噌内
出河村	畠	7	出 川				

「比内千町と申習候村数覚」にある比内の村々  
(大館市内のみ抜粋)



青磁・青白磁・白磁



青花皿



瀬戸美濃焼皿



青磁碗



瓦質地蔵像



茶臼



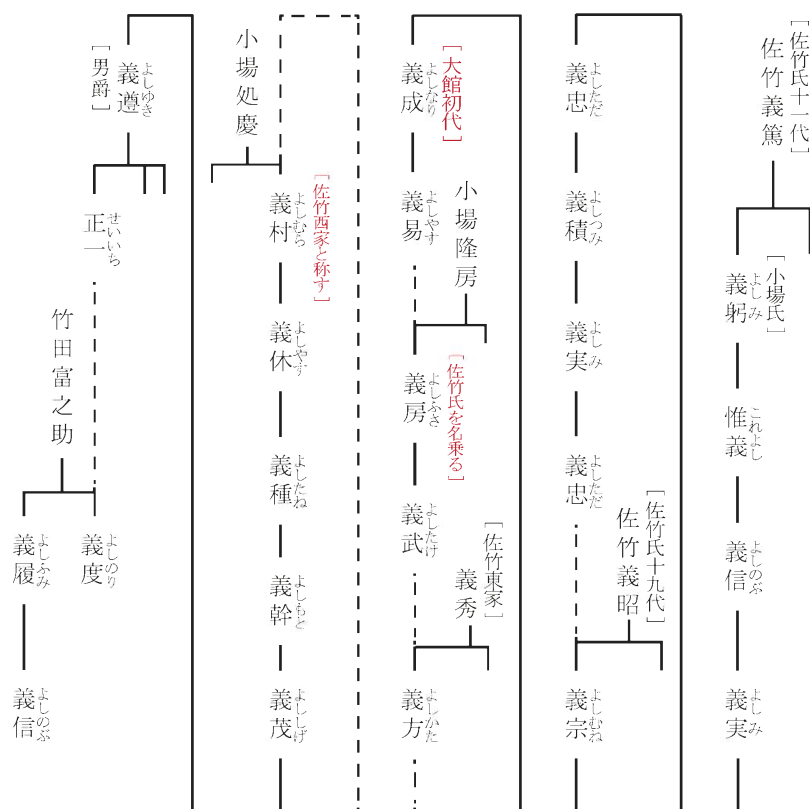
## 4. 近世～近代

### 1) 佐竹西家時代

慶長7年(1602)、徳川家康の命により、常陸の国(今の茨城県)から秋田へ国替えとなった佐竹義宣おぼよしなりに従い秋田入りした小場義成(義宣の従兄弟)は、慶長15年(1610)正式に大館城代となりました。

義成を初代として、3代義房の時から佐竹を名乗るようになり、6代義村の時「西家」の称を許され、以後「西家」や「お西様」と呼ばれるようになりました(常陸時代、本城から見て小場城が西に位置していたため)。

### 大館佐竹家の歴代系図



### 佐竹西家文書



藩主・佐竹義宣から大館城代・小場義成へ宛てた書状

※展示はレプリカ

## 2) 十二所茂木氏

佐竹氏の秋田転封により、慶長15年(1610)大館城代には小場義成が任命され、南部藩との境の要衝である十二所城にも城代が置かれました。元和元年(1615)幕府から一国一城令が出されたため、元和6年に十二所城は破却となり、居館「再来館」として改築され、この時から城代の呼称も「所預」となりました。天和3年(1683)に茂木知恒が所預に任命され、貞享5年(1688)に居館「再来館」は城下町北側の一面に移築されました。茂木氏は以降、明治2年(1869)の版籍奉還による解任までの10代187年間におよんで代々十二所所預を務めました。

写真の絵図は、明治5年(1872)新政府が士族確認のため、十二所戸長に差出させた絵図の控えです。本丸跡や郷校成章書院跡、御境御番所跡などが記載され、当時の十二所町の様子が分かる貴重な資料で、大館市指定有形文化財に指定されています。



十二所士族屋敷絵図 [大館市指定文化財]

茂木氏の屋敷跡「再来館」があったとされる場所に公民館が建設されることになり、事前の発掘調査が平成21・22年に行われました。

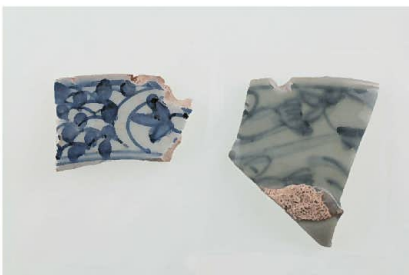
この調査では、礎石建物跡1棟、掘立柱建物跡15棟、井戸跡3基、塀跡、門跡、土坑、溝跡などが見つかりました。調査により出土した陶磁器類は主に16世紀末から19世紀のもので、17世紀のものも多く、産地は肥前(現在の佐賀県と長崎県の一部)産陶磁器が最も多く、ほかに京焼・瀬戸美濃産などがあります。



茂木屋敷跡

また、当時高価であった中国の景德鎮窯・漳州窯産磁器や肥前産の青磁が出土し、屋敷を造営した茂木氏の社会的地位の高さがうかがえます。そのほか土製品(貝風呂、土鈴、レンガ)、かわらけ、石製品(焜炉、硯、砥石)、銭貨(寛永通宝)、木製品(下駄、漆器椀、羽子板、箸)などが出土しました。

## 陶磁器



漳州窯産(皿・鉢)



景德鎮窯産(皿)



景德鎮窯産(皿)



## 陶磁器



肥前産（青磁皿）



肥前産（青磁碗）



肥前産（青磁香炉）



肥前産（皿）



肥前産（皿）



肥前産（鉢）



肥前産（碗）



肥前産（碗）



肥前産（碗）



肥前産（猪口・瓶）



瀬戸美濃産 [志野焼] (小鉢)



瀬戸美濃産（皿）

## 木製品



漆器碗



下駄



羽子板

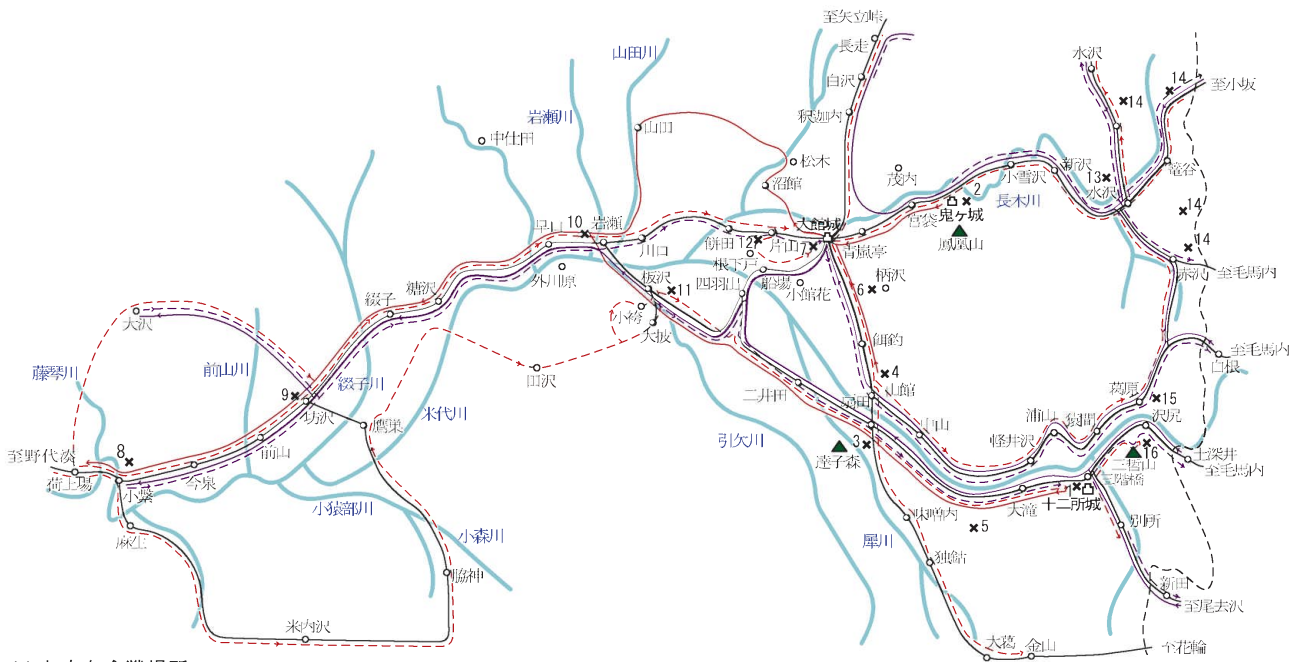
### 3) 大館戊辰戦争

慶応4年(1868)1月、戊辰戦争が勃発し、東北地方も戦渦に巻き込まれました。

奥羽越列藩同盟を離脱した久保田藩に対し、8月9日南部藩が宣戦布告をし、大館地方も戦場となりました。南部軍は鹿角街道口などから攻め入り、圧倒的な兵力の差により、十二所の茂木軍、大館の佐竹軍は敗れました。8月22日、大館城は落城し、大館・扇田・十二所の町は灰燼に帰してしまいました。

新政府軍の援助を受け、9月6日大館城を奪還するも、この戦争によって多大な損害を被りました。

#### 一 戊辰戦争関係要略図 一



#### × おもな会戦場所

- |              |            |
|--------------|------------|
| 1. 十二所城・三哲山戦 | 9. 坊沢戦     |
| 2. 鬼ヶ城戦      | 10. 岩瀬戦    |
| 3. 扇田戦       | 11. 板沢戦    |
| 4. 山館戦       | 12. 餅田・片山戦 |
| 5. 善知鳥坂戦     | 13. 大葉岱戦   |
| 6. 山王岱戦      | 14. 雪沢諸口戦  |
| 7. 大館城       | 15. 葛原戦    |
| 8. 小繫戦       | 16. 沢尻戦    |

- 佐竹大和・茂木筑後軍退却経路
- - - 佐竹大和・茂木筑後軍及連合軍経路
- 南部藩植山佐渡軍及諸隊進攻経路
- - - 南部藩植山佐渡軍及諸隊退却経路



とうがん  
陶丸  
鳳凰山下、玉林寺跡から出土した戊辰戦争時の弾。



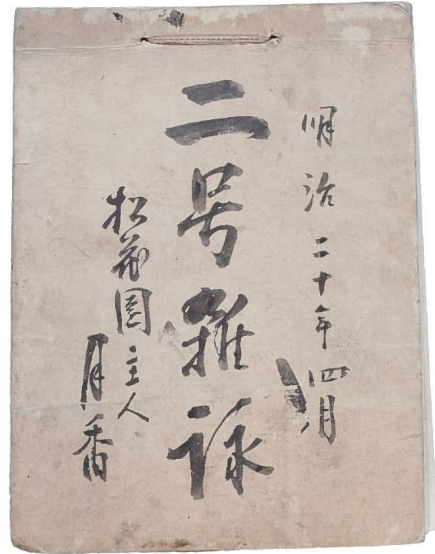
榴弾  
さくらだま  
幕末時、柘榴玉または、炸裂弾と呼ばれていたもの。未使用で桂城公園から発見された。

## 5. 近・現代

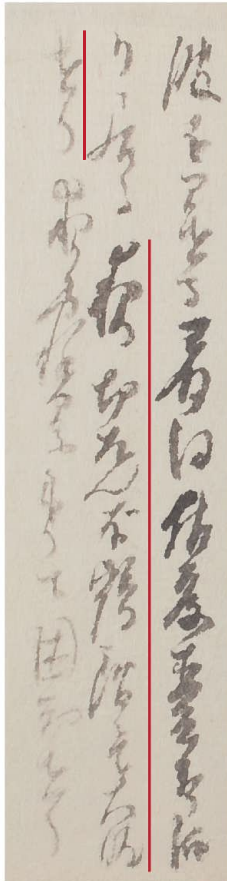
### 1) 小野儀助日記

小野儀助は大館町大町呉服店マルコの大旦那で、明治期の大館実業家を代表する一人です。

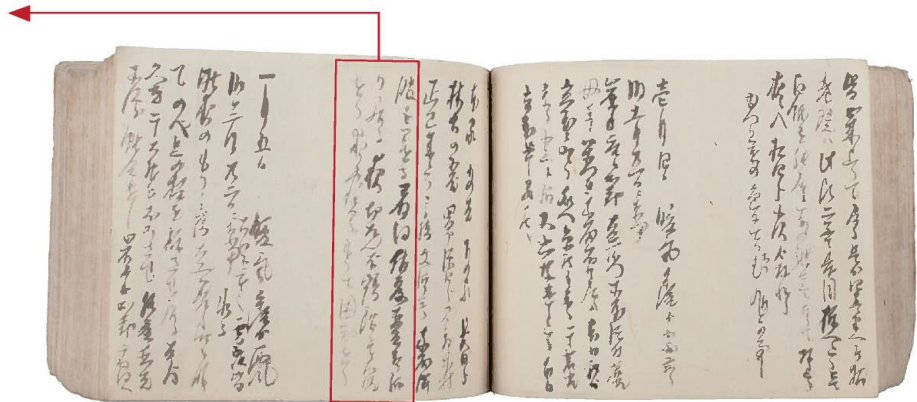
日記は、明治20年から31年にかけてのもので、明治期の大館を知る貴重な資料です。



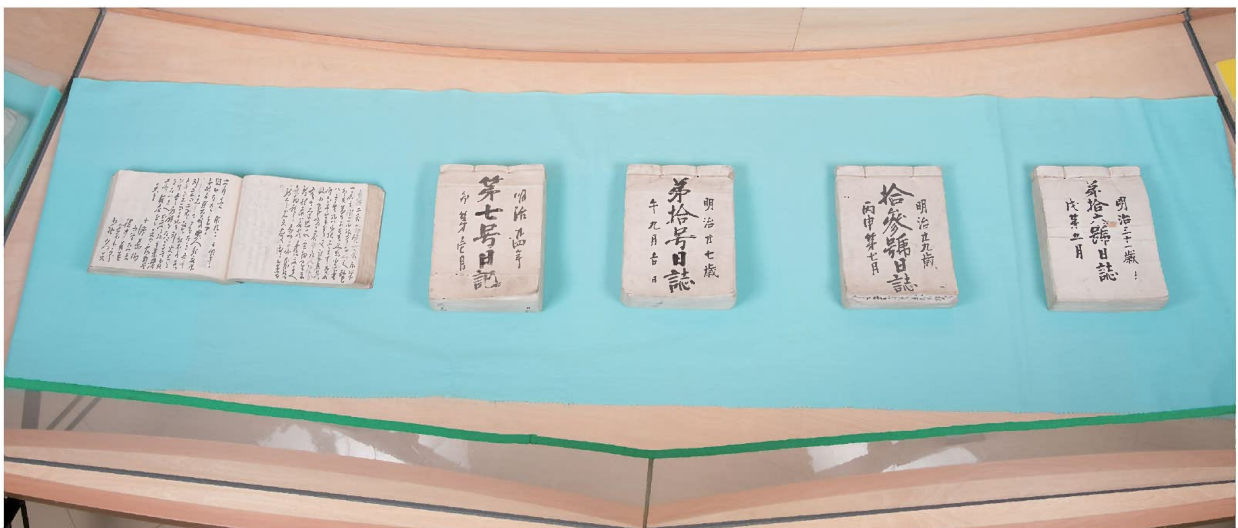
小野儀助日記 二号雑詠



「夜切たんぼ鶏鍋にて大腹せり」



明治21年1月4日(旧暦11月21日)の日記 参考記



小野儀助日記展示



## 2) 北鹿ハリストス正教会

聖堂は秋田県指定文化財、また聖堂内にある山下りんの聖像画（イコン）19点は大館市指定文化財となっています。

聖堂は明治25年、当時の信者が自邸内に建てたもので、東京神田ニコライ堂の建築を手がけた大工が関わっています。秋田杉を巧みに加工して作られた、木造建築の教会として貴重なものです。



昭和20年代の北鹿ハリストス正教会聖堂



修復された北鹿ハリストス正教会聖堂



聖像画（イコン） [大館市指定文化財]  
※宗教法人北鹿ハリストス正教会蔵

## 3) 秋田釣針

江戸時代後期に武士の内職として作られはじめましたが、明治後半から昭和初期にかけては全国の手作り製品の中でも著名なものの一つとして挙げられていました。

昭和50年代に入り、製作は終了しましたが、釣り人には幻の釣針として長くその名が残っています。



秋田釣針



釣針作業台



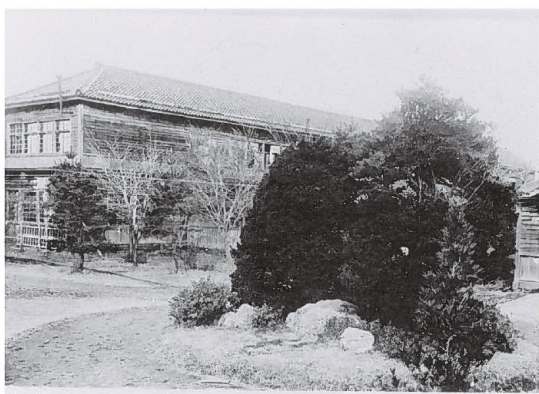
4) 写真で見る明治・大正



大町通り



田町通り



大館中学校



公立大館病院



大館駅鉄道開通



大館女子小学校



大館男子小学校



大館高等女学校